

⑫ 公開特許公報 (A)

昭64-39973

⑮ Int.CI.

A 23 L 2/00
// A 61 K 31/19
31/56

識別記号

ADU

府内整理番号

A-7235-4B
7330-4C
7375-4C

⑯ 公開 昭和64年(1989)2月10日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑰ 発明の名称 飲料組成物

⑱ 特願 昭62-196595

⑲ 出願 昭62(1987)8月6日

⑳ 発明者 大久保 勉	三重県四日市市赤堀新町9番5号 太陽化学株式会社内
㉑ 発明者 小清水 弘一	奈良県奈良市法蓮山添西町856番10号
㉒ 発明者 大東 肇	京都府京都市山科区御陵大岩町19番地
㉓ 発明者 金武 祐	三重県四日市市赤堀新町9番5号 太陽化学株式会社内
㉔ 発明者 西元 勝也	三重県四日市市赤堀新町9番5号 太陽化学株式会社内
㉕ 発明者 山崎 長孝	三重県四日市市赤堀新町9番5号 太陽化学株式会社内
㉖ 出願人 太陽化学株式会社	三重県四日市市赤堀新町9番5号

明細書

1. 発明の名称

飲料組成物

2. 特許請求の範囲

ウルソール酸もしくはオレアノール酸を各々単独で、あるいは混合した状態で配合することを特徴とする飲料組成物。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、飲料組成物に関するものであって、がん予防の見地から飲料物にウルソール酸もしくはオレアノール酸を単独で、あるいは混合した状態で加えることにより細胞のがん化を予防せしめる有用な飲料組成物を提供するものである。

(従来の技術)

近年、化学発がんは、イニシエーションとプロモーションの異なる2つの過程が関与し、それぞれイニシエーターとプロモーターによって誘起されるという「発がん2段階説」が一般に認められている。

特にプロモーションは、イニシエーションによって生じた潜在的腫瘍細胞のがん細胞への促進段階であると考えられているが、このプロモーションを引き起こすプロモーターが我々をとりまく環境中に広く存在していることから、プロモーターを抑制する物質、すなわち抗発がんプロモーターの開発は重要な課題である。特に従来は、発病後の治療に、おもきを置いていた点を考えると、がん予防という見地から抗発がんプロモーターの利用というのは増え重要となる。

最近、植物より抽出・精製したウルソール酸及びオレアノール酸が、抗発がんプロモーターとして有効であることが明らかにされた〔徳田、大東、小清水、伊藤、Cancer Letters, 33巻, 279~285頁(1986)〕。

がんの予防という見地に立って、前記事実を考える時、天然産のウルソール酸及びオレアノール酸を飲料に加えた、新しいタイプの飲料組成物が望まれる。

しかしながら、従来の果汁飲料、及びスポーツ

ドリンクなどの各種飲料組成物は、味の良さ、爽快さなどの嗜好面、更にはスポーツ、あるいは肉体労働時の発汗による水分・ミネラルの補給及び飲料組成物の浸透圧を調整することにより水分・ミネラルを円滑に吸収させることを主眼としたもので、病気の予防、特に発がん予防の面を配慮した飲料組成物は見当らない。

(発明が解決しようとする問題点)

本発明は、上記の実状に鑑み、天然産の抗発がんプロモーターを加えた抗発がん効果のある飲料組成物を提供することを目的とする。

(問題点を解決するための手段及び作用)

本願発明者らは、研究の結果、ウルソール酸もしくはオレアノール酸を各々単独で、あるいは混合した状態で配合した飲料組成物が、本発明の目的を達成する物であるとの結論に到達した。

ウルソール酸及びオレアノール酸とは、下記の化学構造を持つトリテルペンの一類で、広く植物界に分布している物質である。中でもウルソール酸は、カキ、リンゴ、サンザシ、ウツボグサ、ウ

また本発明の飲料とは、果汁飲料、炭酸飲料、スポーツドリンク、アルコール飲料など、更には野菜ジュースやスープ類も含み、これらの飲料にウルソール酸もしくはオレアノール酸を単独で、あるいは混合した状態で所定量添加したものを飲料組成物としている。

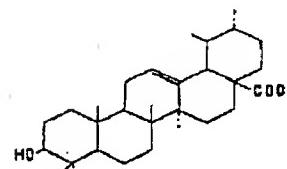
この場合、ウルソール酸及びオレアノール酸は、純粹な物質として加えてもよく、更には両方、あるいは一方のみを含む植物の抽出物を加えた飲料組成物でもよい。

例えば、オレアノール酸を多量に含むオリーブの抽出物(実あるいは葉)を所定量添加した飲料組成物、またはウルソール酸とオレアノール酸の両方を含む女貞子(モクセイ科:トウネズミモチの成熟果実)の抽出物を所定量添加した飲料組成物であってもかまわない。

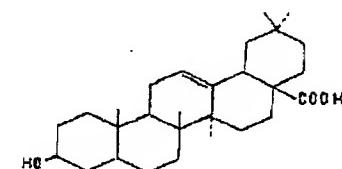
更に、飲料組成物の嗜好性を向上させるために果汁甘味料、酸味料、香料、炭酸、アルコールなどの成分や他の栄養成分、生薬成分などの中から適当なものを選択し適宜配合することができる。

ワウルシなどに、又、オレアノール酸は、カキ、ウメ、フトモモ、センブリ、オリーブなどに多量に含まれている。

このように、ウルソール酸及びオレアノール酸は、日常我々が食する果物や漢方生薬に起源する物質であるため我々の健康を害する物質でないことは明白である。



ウルソール酸



オレアノール酸

以下、本発明を実施例により説明する。

実施例1.

植物より抽出・精製したウルソール酸もしくはオレアノール酸を各々3.0 mg/l~4 g/l 単独で、あるいは混合した状態で配合した下記の組成の飲料組成物(水に溶かして1 lとする)を調製した。

飲料組成物(単位はg)

成 分	A	B	C
無水ブドウ糖	4.8	4.8	4.8
果糖	7.76	7.76	7.76
粉末クエン酸	1.44	1.44	1.44
クエン酸ナトリウム	1.02	1.02	1.02
乳酸カルシウム	0.12	0.12	0.12
塩化マグネシウム	0.12	0.12	0.12
粉末天然香料	1.20	1.20	1.20
ビタミンC	0.018	0.018	0.018
ウルソール酸	0.03~4.0		0.03~2.0
オレアノール酸		0.03~4.0	0.03~2.0
合 計	12	12	12

得られた飲料A, B, Cについて官能試験を行った結果は、いずれも嗜好性の高い評価を得た。

[効果]

以上の如く本発明は、抗発がんプロモーター作用のある天然の植物成分として見い出されたウルソール酸及びオレアノール酸を配合利用したもので嗜好性はもちろん、種々の化学物質による発がんを予防する効果も合わせ持つもので、国民の健康に寄与するところ大である。

特許出願人

太陽化学株式会社